

「筑波キングス・ガーデン福祉村を目指して」

理事長代理兼総合施設長 宇都宮和子

34年前、筑波の地に蒔かれたキングス・ガーデンの種が今では全国に花開き、70を超える関連施設があり更に協賛施設は増えつつあります。筑波キングス・ガーデンも昭和62年に特養と在宅サービス、平成19年に常総地方広域市町村圏事務組合の委託を受け常総広域障害者支援施設「常総ふれあいの杜」、さらに守谷市障がい者福祉センターひこうせんの委託運営等大きく広がっており、また、在宅サービスにおいては、配食サービスや介護タクシー、平成24年に障がい者の相談支援事業の開設等、地域のニーズに応えた事業を展開してまいりました。

このたびその源流とも言うべき軽費老人ホームが老朽化した為に建替えの必要に迫られ、平成26年度に特定施設入居者生活介護を含むケアハウスとして生まれ変わりました。建築の際には県の補助金や福祉医療機構からの借入金(30年返済)、自己資金(積立金)、また貴重な寄付金をその資金に充当しました。

今後その軽費の跡地には、

- 1)障がい者のためのグループホーム
- 2)就労支援施設、地域交流棟(喫茶室)
- 3)児童養育事業(ファミリーホーム)

等のビジョンを掲げ、具体的な計画を策定しております。また5年後を目安に特別養護老人ホームの建替えも予定しております。



建物だけではなく人材の確保及び育成についても、現在行っている介護職員初任者研修の継続はもとより介護福祉士実務者養成施設の設置やメンタルヘルスの充実等、働きやすい職場環境づくりを目指し、やりがいのある施設としての展望を掲げ、長期的な人事計画を見据えることが重要課題となっております。

これらの構想を具現化する為には長期的・総合的な法人の資金計画を立てることが重要であり、年度予算においてはその計画に則った具体的な積立金を計上し、良好な運営としっかりとした資産管理をしなければなりません。また建物や人材をどう事業に反映させ、果ては地域にどう還元していくのか、今後のキングス・ガーデンの重要な使命と捉え福祉村を目指すべくその働きを進めてまいりたいと思います。

「その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声とがある。」

イザヤ51:3